

# 教育と文化



あなただから、任せたい

その人自身を大切に

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎ 2115

ある住宅会社の調査で、佐賀県が全国一の『イクメン県』になったことをご存知でしょうか。この調査は4つの指標で『イクメン力』が評価され、『妻が評価する夫のイクメン度』の項目でも一位となっています。コロナ禍でのストレスやDV（ドメスティックバイオレンス）の増加が心配されている中、妻が夫の家事や育児への貢献度を認めていることは、喜ばしい限りです。

この調査によると、男性の育児休業取得率は昨年の9.6割から12.8割へと増加傾向を示し、20代〜30代の若い世代を中心に、家事や育児を協力して行うという生活スタイルが定着してきていると言えらるのかもしれませんが。

一方、国は女性管理職の登用については、2020年までに30割とする目標を掲げていますが、達成は難しそうです。『イクメン』にしても『女

性管理職』にしても、対象を男性や女性に限定した言い方は、本来ないほうが望ましいと思います。なぜなら、イクメンという言葉は、家事や育児は女性が担うという考え方があるから生まれた言葉であり、女性管理職も、管理職は男性が担うという考え方が生まれた言葉だからです。

これからは、男性だから、女性だからという考え方はなく、『この仕事は、あなただから任せたい』という、適材適所の考え方が大切ではないでしょうか。それは、かけがえのない一人として、その人自身を大切にすることにもつながると考えます。家事や育児でも、夫と妻とが互いを大切な存在と認め合うことで、助け合い、分かち合えると考えます。育児の期間はあっという間に過ぎてしまいきます。夫婦で分かち合いながら、楽しんでほしいものです。

## 郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ〜埋葬遺構を中心として〜②

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 1262

宮ノ前北遺跡（木須町 平成7年度調査）

宮ノ前北遺跡では、縄文時代後期（約4千年前）の土壇墓（地面に穴を掘り、直接遺体をおさめた墓）を確認しました。墓は後世の開発で全体的に削られており、調査時点で長さ約1・1m、幅75cm、深さ25cmでした。

埋葬者は壮年の女性で、腕は肘の部分で直角に曲げられ、足は股関節と膝関節で強く曲げられた状態で埋葬（屈葬）されていました。遺体の上は、たくさんの石で覆われており、特に首の両側には、握りこぶしより一回り大きい石を両肩に乗せるように置いてありました。

縄文時代には、手足を伸ばした埋葬（伸展葬）もありますが、大多数は屈葬で葬られます。その理由としては、墓穴を掘る労力を少なくするためという説や胎児と同じ姿勢にして母なる

大地に回歸する説などがありますが、胸に石を抱かせる埋葬方法（抱石葬）もあることから、死者から霊が遊離しないよう手足を曲げて霊を封じ込める説も有力な説の一つとなっています。



↑石を取り除いた状況（屈葬）



↑石で覆われた状況